

昨年9月6日に発生した北海道胆振東部地震から1年。この間、被害の大きかった厚真町、安平町、むかわ町などを何度も訪問し、関係者の皆様と一緒に復旧・復興に取り組んできました。

## 被災された方々の声を伺いながら――



6月1日には安平町の仮設住宅で暮らす住民の皆様と懇談(写真上)し「入居期間が原則2年で、先行きが不安」といった声や、「暑さ対策として玄関フードに網戸を付けてほしい」とのご要望をいただきました。すぐに道に対して申し入れを行い、玄関フードに網戸の設置は民間企業の支援という形ではありますが、すべての仮設住宅に設置され、大変喜んでいただいております。



8月1日には石井啓一国土交通相に同行し、厚真町を訪問(写真中)。大規模な土砂崩れで使用できなくなっている、富里浄水場

を視察し、来年8月からの配水再開へ向け、斜面の崩落防止対策工事などの進捗状況について説明を受けました。

9月5日には日高町で行われた高齢者福祉施設の災害復旧決起大会に出席(写真下)。国や道の補助を受け、建物の復旧とともに非常用自家発電機の工事が行われており、これまで申し入れてしておりました要望が形になりました。

これからも、地域の皆様のお聞きし、復旧・復興に取り組んで参ります。



北海道議会議員  
〈札幌市白石区〉

# 森しげゆき通信



2019

秋号

担当教授からこれまでの経過を聞く

## 寒冷地ものづくりラボ(MONOLABO)を視察

6月7日、道議会公明党として道立総合研究機構の「寒冷地ものづくりラボ(MONOLABO)」を視察しました。

今回完成した施設は、電子機器が放出する電磁波の量を精密に計測する道内初の「電波暗室」(写真右)、屋外で雨にさらされる状況を想定し、あらゆる方向からジェット水流を当て防水機能を評価する「防水試験室」、零下30度までの環境下で機器が正常に動作するかの試験を行う「低温試験室」の3施設です。

厳しい条件下での試験を重ねることで、道内の気候に合った製品開発に活用していただくもので、これからも、多彩な研究事業を後押しして参ります。



札幌医科大学などが研究・開発を進めてきた再生医療による

## 待望の保険適用診療始まる

脊髄損傷の治療が5月から保険適用で始まりました。

6月3日、道議会公明党として大学を訪問し、現状と今後の課題についてお話を伺いました。大学関係者から「世界初の医療技術であり、新しい製造設備や新しい知識を習得するための人材の育成が必要。また、多くの方がリハビリを受けられる環境を整備して欲しい」などの要望をいただきました。

これからも、一人でも多くの方が治療を受けることができるよう、後押しして参ります。



### 森しげゆきプロフィール

- 昭和28年6月12日 香川県坂出市生まれ
- 昭和47年 国立諮問電波高校(現香川高専)卒業
- 昭和56年 神戸大学経済学部卒業
- 平成6年 時事通信社退職(22年間勤務)
- 平成7年 北海道議会議員初当選
- 平成31年 同6期目当選
- ◆北海道議会 水産林務常任委員会 理事  
人口減少問題・地方分権改革等  
調査特別委員会 委員
- ◆公明党北海道本部 幹事長
- ◆北海道議会 公明党議員団 団長

●●● 皆様の声をお寄せ下さい ●●●

### 森しげゆき事務所

〒003-0025 札幌市白石区本郷通2丁目北3-21  
TEL 011-860-4151/FAX 011-865-9043  
URL <http://kmplan.net/usr/mori/>  
E-mail [sigemori@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:sigemori@seagreen.ocn.ne.jp)

発行:森成之/編集:ケー・エム・プラン





5月27日、令和元年度の予算編成並びに道政執行に対する要望をまとめ、鈴木直道知事に手渡すと共に、今回の要望書の趣旨を説明しました(写真左)。

内容は、「世界に向けた成長戦略の推進」「景気・経済・雇用対策の推進」「安心社会の構築」「本格的な災害対策の推進」など14分野、計391項目に渡って予算や政策に反映させるよう要望しました。



6期目も

東奔西走!



## 第2回定例道議会で代表質問

6月26日、令和元年第2回定例道議会で代表質問しました。鈴木直道知事(写真)となって初めての本会議でもあり、知事の政治姿勢をあらためて問うと共に、経済の活性化や観光、札幌医科大学の再生治療、また児童虐待問題など様々な分野で知事の考えや道の対応



などを質問しました。

この中で、災害時に医療活動の中心となる拠点病院の指定拡大を提言したところ、道としても積極的に取り組む姿勢を示し、主な指定要件である非常用自家発電設備の導入などを進めることになりました。



## 聴覚障がい者情報センターを視察

8月13日、道議会公明党として、札幌市内に開設された「北海道聴覚障がい者情報センター」を視察(写真右上)し、関係者と意見交換しました。

このセンターは、道ろうあ連盟の事務室を改装し、障がい者からの相談に対応する他、手話通訳者の養成、また、災害時の情報発信や遠隔地の手話サービスを担います。手話サービスは役場の窓口などにタブレットを置き、インターネット電話でセンターにいる手話通訳者をつなぎ、聴覚障がい者へ対応を支援します(写真右下)。道議会公明党としても、これまで道に対して予算要望するなど、後押しをして参りました。今後とも聴覚障がい者への支援をさらに充実させて参ります。



6月6日、道議会公明党として、電力の安定供給や再生可能エネルギーの活用促進に大きな役割を果たすと期待される「新・北海道本州連系設備(新・北本連系設備)」を視察しました。

北海道と本州を結ぶ連系設備は、これまで津軽海峡を海底ケーブルで渡るルートで容量30万kw(キロワット)が2系統で計60万kw。今回の新ルートは、青函トンネル内にケーブルを敷設し、30万kwを整備。これにより合計90万kwに増強されました。

北海道と本州を結ぶ連系設備は、気温の変化で電力需要が増加したり、発電所のトラブルで電力供給が減少する場合に備え、相互に送受電することで電力の安定供給を図るシステム。また、道内に多くある太陽光や風力などの再生可能エネルギーによる電力を本州へと送ることもできます。

今後、経済界などからも期待の大きい設備の増強について、しっかりと取り組んでまいります。



新・北本連系設備(北斗市)を視察



青函トンネル内のケーブルに繋ぐ吉岡ケーブルヘッド(福島町)

新・北本連系設備を視察